



独自開発の米

「次世代シリーズ」を世界へ

赤羽修一さん(57歳・犬塚)

現在、日本では300以上の品種の米が作られていますが、そのほとんどが国などの専門機関で研究・開発されたものです。そんな中、一人独学で米の品種開発に挑み、成功を収めた方がいます。その人物こそ、米・麦の専業農家を営んでいる赤羽修一さんです。

今から15年ほど前に両親から経営を譲り受けた赤羽さんは、46歳のときに米の品種開発に挑戦することを決意します。きっかけは、地球温暖化に危機感を覚えたことでした。「埼玉も今以上に暑くなる。高温でも育てやすく、急な温度変化や病害虫に強い稲をこの手で作りたい」とそんな思いが心の中に芽生えたそうです。品種開発に取り掛かった赤羽さんは、これまで生産していた「彩のきらびやか」の突然変異種に目を付けました。7、8種類の突然変異種の苗を育成し、全ての稲の稈長(地面から穂首までの



長さ)や穂長(穂首から稲の先端までの長さ)、玄米の形や大きさなどの詳細なデータを収集するといった途方もない作業に明け暮れました。

「これなら品種登録ができる」という確信が持てるようになったのは、挑戦から3年後のことでした。1種類の稲が他の品種と比べて、明らかに稈長が短く、芒が長いといった特異性を持つことが長い年月をかけて確認できたのです。「ついに高温、雨風、病害虫に強い理想的な稲ができた」赤羽さんはこの稲を「次世代の夢」と名付け、満を持して平成21年に農林水産省に品種登録願を申請。そして、平成23年に新たな品種として登録されました。

高温・雨風・病害虫に強い「次世代の夢」は、農業雑誌にも取り上げられ、味も品質も「上の上」という非常に高い評価を受けました。赤羽さんは「この米は、煮崩れしないからどんな炊き方でもおいしいんだよ。こんな米をずっと作りたかった」とうれしそうに語ります。その後「次世代シリーズ」として「次世代のまなざし」と「次世代の七光」の開発に成功し、現在も新たな次世代シリーズを世に送り出すために6種類の苗を育てているそうです。

「次世代シリーズ」の人氣が出てきたら、世界中にこの米を広めていきたいな」と語る赤羽さん。夢の実現に向けて、これからも画期的な能力を持つ「次世代シリーズ」の開発に力を注ぎます。

はじめまして



平成26年1月生まれのお子さんを募集します

○11月4日(火)~28日(金)に電話またはEメールで広報広聴課広報広聴担当(内線318) ※応募要領は市ホームページをご覧ください。 ○応募者多数の場合は、12月2日(火)午前11時から市役所203会議室で公開抽選を行います。



★★★ 平成25年11月生まれのおともだち ★★★



茂木 せいちゃん(前谷) 平成25年11月18日生まれ 父・智紀さん 母・幸子さん 「お姉ちゃんたちと仲良くね!」



山崎 桃矢ちゃん(持田) 平成25年11月19日生まれ 父・雅祥さん 母・桃子さん 「山崎家の元氣印☆」



小島 遥斗ちゃん(門井町) 平成25年11月5日生まれ 父・穂高さん 母・亜沙子さん 「おにいちゃん、だいすき☆」



岸野 伊吹ちゃん(長野) 平成25年11月15日生まれ 父・光貴さん 母・江里さん 「笑顔いっぱい! 明るく元氣に!」



小野寺 柑奈ちゃん(持田) 平成25年11月10日生まれ 父・和哉さん 母・有紀さん 「我が家に 天使が増えました!」



小島 工ちゃん(城西) 平成25年11月19日生まれ 父・鉄二さん 母・由佳里さん 「姉弟仲良く 大きくなあれ!!」

ぎょうだの会社を クローズアップ!!!

有限会社向町紙工

オリジナリティあふれる紙箱や紙製品を提案



会社プロフィール

代表取締役社長 森 和文 【事業内容】紙加工製造

今月紹介する有限会社向町紙工は、昭和31年の創業から、紙箱などの紙製品を早く丁寧な、そして低価格で提供している会社です。 同社は創業当時、全国一の生産量を誇った足袋を入れる箱を中心にしていましたが、生活スタイルの変化により足袋の生産量が減少し、徐々に発注が減っていったそうです。その一方で、工場から「工業用ねじ」を入れる紙箱の発注を受けるようになり、工場への納品が多くなりました。しかし、工業用ねじには潤滑油などの油が塗られているため、足袋を入れるような箱では油がにじんでしまい、すぐに破れてしまうなどの問題が発生。試行錯誤を重ねた結果、強度の高い紙と接着剤を用いた耐久性・耐水性が非常に高い紙箱の開発に成功したのです。当時、このような特徴を持った紙箱は少なく、しかも比較的価格が低かったことから、工場からの受注が大幅に増え、主力商品となりました。 また、同社の特徴は、お客さまのニーズを的確に捉えたサービスを提供できること。特に力を入れているの

が、1個からでも注文できる「オーダーメイド箱」です。代表取締役の森和文さんは「私たちは中間業者を bypass せず、設計から製作、納品まで全て自社で行っています。『オーダーメイド箱』は中間マージンが発生しない上、比較的安く作る事ができるといって、比較的強みを生かして誕生した商品です」と語ります。そして、今年からはインターネット販売も開始し、お客さまのイメージに合わせた紙箱をさらに手軽に提供できるように、お客さまの評判も高く、リピーターも多くなったそうです。 さらに同社は、「サンプルカッター」という自在に紙類を切り取る事ができる最新機器を導入しました。これにより、ダンボール類を素材とするパネルや小売店で商品を飾るための棚、椅子やテーブルなど新たな製品を開発することが可能になりました。同社は今までの技術を生かしたオリジナル箱の製作と最新鋭の機械を使用した紙器の製作で、これからの紙製品の可能性を大きく広げていくことに挑戦していきます。

私の作品

◎皆さんの作品を募集しています。 ◎俳句は毎月5日までに、はがき・封書で 広報広聴課へご応募ください。

- 俳句 向町 茂木 咲子 体育祭若き日なつかし鱗雲 谷郷 伊東 典子 空高し肩で寄り添う母仔馬 佐間 須永 節子 石仏の背に落日の秋彼岸 城西 西田吉之助 柿梨を供えて待てど月見えず 城西 新井 禮子 無縁塚誰も詣でぬ彼岸花 渡柳 川田 静江 良夜にはわれも詩人となりけり 清水町 柳沢 紀子 同窓会つきぬ話の夜長かな 門井町 嶋田 茂 きのこ飯母なる山の香りして 持田 伊藤 洋子 山間の古刹の庭に秋桜 持田 田子 敏枝 子等来たり食べ泣き笑う敬老日
- 荒木 高澤よね子 大利根の夕日に染まる花芒 須加 蓮 陽子 木犀の香りに溢れる朝の庭 富士見町 森 節子 夕食の手間ひまかけしくりごはん 持田 二瓶 弘子 丹精の心まで喰う稲雀 荒木 森田 静 初恋の信濃路辿り藤村忌 荒木 藤田 明枝 稲光り稜線間に浮き立たす 城西 奥野てる子 未来へと命をつなぐ稲穂かな 南河原 今村 文女 狒犬に留守を託して神の旅 向町 渡月 峯 車椅子口先八丁栗拾い 下須戸 澤田 郁 稲刈機通りしあとを驚舞えり (三沢 一水 監修)

※このコーナーで紹介する会社を募集しています。 特色ある業務を行っている会社の情報を広報広聴課広報広聴担当(内線318)までお寄せください。